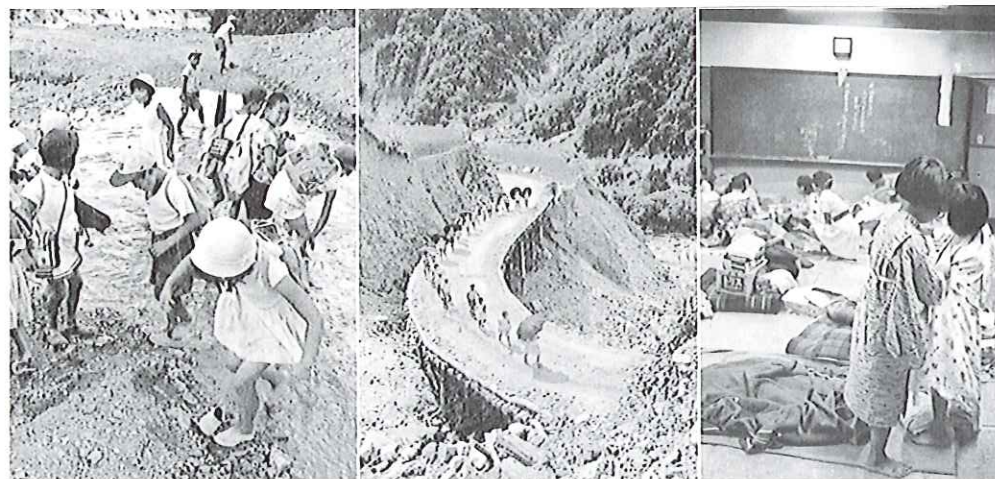


■ 北川の子供たち

ようやく北川の子供たちにも学校生活が戻ってきました。しかし、分校を失い10kmも離れた鹿塩小学校本校まで毎日通うことはできません。幼い弟妹とともに1週間寄宿舎で生活し、土曜日になると3時間かけて自宅に戻る生活が始まりました。日曜日には寄宿舎に戻らなくてはなりません。でも、泣かないで元気に小学校に通いました。



▲集落が見えてくると足が速くなります。まだ埋まった家はそのまま、家が無くても家族が大丈夫なら平気。



▲今日は土曜日、一週間ぶりに家に帰れます。リュックは洗濯物がいっぱいです。

▲寝るときは賑やかです。小さな子に寝巻を着せるのも大変。



▲「お兄ちゃんだ」、とびついてきた小さな弟を抱き上げると、一週間の寂しさも吹きとんでしまいました。

■ 集団移住

集落全体が壊滅的な被害を受けた北川集落は、先祖から受け継いだ田畑も土地も見る影もなく流失したため、住民は移住せざるを得ない状況であったと言えます。国は全国で初の試みとして災害による集団移住事業を決定し、わずか1年半後の昭和38年3月末までの移住を通達しました。

全てを失った人々は集落としての対応を相談する余裕も無く、わずかなつてを頼り、駒ヶ根・伊那方面に散りじりに移住していきました。平和だった頃の人々のつながりも無く寂しい別れでした。しかし、北川集落の皆さんは今でも年1回北川郷友会で顔を合わせ、ふるさとへの熱い思いを持ち続けています。

■ 語り継ぐ三六災害

三六災害から50年。大西山の崩落地には3千本の桜が村民の手で植え育てられ、大災害から復興したシンボルとして私たちに希望を与えてくれています。私たちが災害の悲惨さや歴史、隣近所や地域の助け合いの大切さを語り継ぎ、日頃から防災対策に取り組むことにより、災害から大切な命と美しい村を守っていくことが求められています。

写真協力

倉田 重光氏、大久保 智夫氏、国土交通省天竜川上流河川事務所

〒399-3502 長野県下伊那郡大鹿村大河原354

大鹿村役場 TEL.0265-39-2001 <http://www.ooshika.com/>

三六災害を語り継ぐ会



式次第

- 一、開会
 - 二、黙祷
 - 三、あいさつ
 - 四、三六災害報道ビデオ映写
 - 五、三六災害経験者の体験談
 - 六、大鹿中学校生徒作文発表
 - 七、国・県の防災対策
 - 八、リレー座談会
 - 九、閉会
- 休憩
- 「三六災害の特徴」
信州大学名誉教授 北澤秋司先生
- 1、「北川集落を襲った土石流」
元北川地区被災者の方々（収録映像）
- 2、「大西山の大崩落」 今井 積 氏
- 1、天竜川上流河川事務所
2、伊那谷総合治山事業所
3、飯田建設事務所
- 1、講演

主催 大鹿村
共催 三六災害50年実行委員会



大鹿村長
柳島 貞康

昭和36年6月、大鹿村を襲った梅雨前線豪雨災害は村の災害史上空前のもので、言葉には表すことのできない惨状になりました。村として再起不能とまで言われ、被災地の中には止む無く集団移住が行われたりして、その後の過疎化の大きな原因となりました。

しかし、この大災害の復旧は、国・県等関係者の大変なご努力をいただく中、昭和39年に立派に完了でき、その後の防災事業により安全な村になりました。

本年は、あの災害から50年という節目の年にあたります。あの当時公私共に村の中心であった方々も、徐々にその数を減らしつつあり、さらに被災・復旧の記憶も遠くなってきています。

くしくも、この3月の東日本大震災の惨状を見るにつけ、50年前の記憶を呼び起こして頂き、さらに次の世代に、あの時の悲しかった状況と、皆で助け合った共助の心掛けを語り継いで、二度とあのような惨状にならないような取り組みをしていくことが、今の私たちの責務であることを肝に銘じて本会を開催するものです。改めて、災害犠牲者のご冥福と、皆さんのご多幸を祈念いたしましてご挨拶とします。

■ 三六災害の概要

昭和36年6月は梅雨前線が一週間停滞し、伊那谷では23日から降り始めた雨が台風6号の接近に伴って激しさを増し、27日にはついに集中豪雨となりました。この日飯田市で325mm（飯田測候所創立以来の大雨）の雨量を観測し、天竜川流域の各地で河川の氾濫や土砂崩れなどの災害が発生して、伊那谷各地で道路が寸断され孤立する集落が続出しました。電気や水道も止まり、孤立した集落で人々は恐怖に震えながら避難生活を余儀なくされました。

この災害で長野県では死者・行方不明者136名、家屋の全壊半壊流失1,144戸、浸水18,488戸、被害総額は約341億円（現在の価格に換算すると約1,130億円）に上る大災害となりました。

大鹿村はこの災害で最大の悲劇といわれる大西山の崩壊、鹿塩川の氾濫などにより死者・行方不明者55名、家屋の全壊半壊流失162戸、浸水344戸、村内いたるところで山崩れ、農地の流失などの災害が発生して、死の村と化したといわれるほどの大惨事となりました。

■ 大河原 昭和36年6月29日午前9時10分頃突然大西山が崩壊し、42名の尊い命が失われ、40戸の家屋が流失しました。27日から28日にかけては、桃の平・桶谷・文満・上市場・下青木・落合地区などで多くの家屋が流失しました。



大西山の崩落が小渋川を堰き止め約30分間天然ダムを作った。建物は大河原小学校



大西山崩落の山津波により破壊された文満地区



桐久保沢の氾濫により土砂に埋まった上市場地区



大西山崩壊により流失した30haの島河原地区の水田

■ 鹿塩

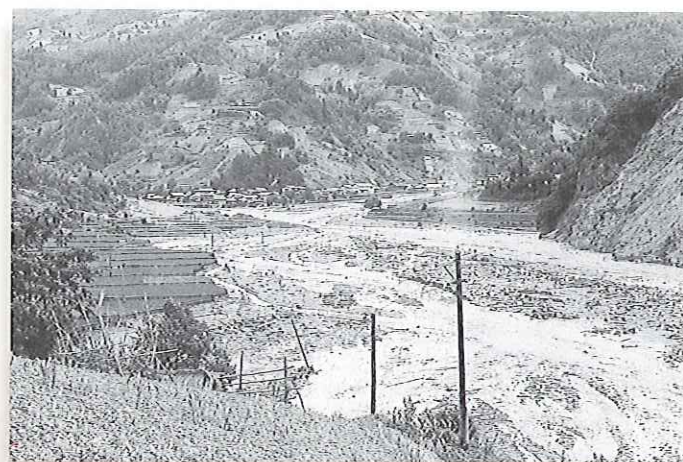
昭和36年6月27日午後 北川地区で3名、西地区で9名、塩河地区で1名の尊い命が失われ、28日にかけて北入・大栗・塩原・沢井・入沢井地区などで多くの家屋が流失しました。



鹿塩川の氾濫により危険にさらされた大栗地区の人家



土砂に埋った鹿塩中学校体育館



水田が流失した向田から塩河地区



氾濫した鹿塩川北入地区八幡坂付近



鹿塩川の護岸浸食により農地が流失した北入地区高安付近



土砂流出により河床の上がった落合地区 建物は役場・診療所

■ 北川集落の悲劇

三六災害で最初に被害を受けたのが北川集落でした。6月27日猛烈に降り続く雨のため、各家庭では児童を迎えに分校に集まり子供を連れて帰りました。午後2時、危険となった東小花沢の橋の撤去作業中に鉄砲水が人々を襲い、不幸にして上方へ走った3人が濁流に巻き込まれてしまいました。荒れ狂う鹿塩川は分校や家屋、農地を流失させ、山の崩落や大花沢の土石流が家屋や土地を埋め、北川集落は数戸の家屋を残し全てが破壊されてしまいました。しかし、この狭い谷間の土石流災害にもかかわらず、3名の犠牲者であったことは、隣近所の声かけや避難指示に迅速に対応した北川集落の共助の賜物であり奇跡的な状況でした。